

「自由都市・堺」の再生(ルネサンス)

1. はじめに

本市40年来の念願であり、多くの市民の皆様も心待ちにされていました「政令指定都市・堺」が、平成18年4月1日に誕生し、早いもので1年が経過いたしました。

この間、政令市移行に伴う権限と財源を最大限に活用した活力に溢れる魅力的なまちづくりの動きも大きく加速しています。また、堺の話題がマスコミに取り上げられる回数が飛躍的に増え、堺からの情報発信力も着実に強まっています。

2. 堺市の歴史

堺市は、大阪府のほぼ中央部、大阪湾岸に位置し、温暖な気候に恵まれ、古代・中世から現代に至るまで、それぞれの時代において発展を遂げて来た輝かしい歴史と伝統を持つ都市であります。

古墳時代には、世界最大の「仁徳陵古墳」が築かれ、また、中世の室町時代には、わが国における日明貿易や南蛮貿易の拠点として賑わい、「会合衆」と呼ばれる有力商人がまちを統治する「自由都市」「自治都市」として大いに繁栄しました。当時の堺は「東洋のベニス」と謳われ、その名は遠くヨーロッパにも知られておりました。世界へと

その活動の場を広げた堺商人の進取の気風は脈々と受け継がれ、茶聖・千利休や、情熱の歌人・与謝野晶子などの文化人を輩出するとともに、多くの名所史跡や伝統工芸を今に伝えています。

また、明治22年の市制町村制施行により、全国で初めて誕生した市の一つであり、14次にわたる近隣22町村との合併を経て、現在では、人口83万人、面積150km²となり、人口規模では全国第14位の都市に発展しています。

3. 「政令指定都市」移行を推進力としたまちづくり

ご案内のとおり、わが国では今、景気の回復基調が続き、企業収益や雇用の改善が見られているものの、国・地方を問わず財政状況は依然として厳しく、少子高齢化の進展や人口減少時代の到来という大きな時代の波を、今後いかに克服していくかという課題を抱えております。併せまして、地方分権の流れが本格化し、都市間競争が一段と激化しており、今後は、都市においても「発展するまち」と「衰退するまち」の二極化が更に進むものと思われまます。

このようななか、「堺」を魅力と活力に溢れ、持

堺市長 き はら けい すけ
木原 敬 介



続的に発展するまちとするためには、更なる「行財政改革」を断行するとともに、政令市の権限と財源を最大限に活用し、「政令指定都市・堺」のまちづくり指針である「自由都市・堺ルネサンス計画」を策定し、着実な実現に努めています。

4. 「自由都市・堺ルネサンス計画」

「自由都市・堺ルネサンス計画」では、政策の選択と集中の考えに立って、平成18年度から4年間に重点的な取り組みを進める142事業を示しています。

なかでも、個性豊かなまちづくりとして、仁徳陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録や日本最大規模のサッカー・ナショナルトレーニングセンターの整備など、地域資源を活かした魅力創造に取り組んでいます。

まちの活力や賑わいを創出するため、中心市街地・堺東駅西地域での市街地再開発事業と、当事業の中で芸術文化ホールの整備に取り組めます。都心地区では、人と環境に優しいLRTによる東西鉄軌道の平成22年度開業を目指すとともに、沿線の賑わいづくりを一体的に推進するほか、本市周遊の拠点となる文化観光拠点を整備します。

地域経済の活性化や雇用の創出に向けては、臨海部において、先進的なものづくり企業が集積する「中小企業クラスター」の形成や成長産業の誘致を図るとともに、災害に強いまちづくりをめざし、国直轄事業による大規模震災対策施設の建設を進めます。

こうした取り組みを含め、「市民の健康やいきがいづくり」「市民生活の安心・安全の確保」「まちの魅力づくり」「経済の活性化」に主眼を置いて、子どもから高齢者まで、市民の個性が開花するまちとして、夢や希望を持って健康にいきいきと暮らせる、安全で安心な地域社会を目指しています。

5. おわりに

堺市は、輝かしい歴史と文化、自治の精神を礎に、存在感のある『オンリーワン』のまちづくりを進めるとともに、地方分権時代をリードする政令指定都市として、大阪府、関西圏、そしてわが国の発展にも貢献する都市を目指しています。

皆様におかれましては、引き続きまして、堺市のさらなる飛躍と発展に向け、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。